

# 大阪の 社会福祉

2020.5  
780

The social welfare  
in OSAKA

## CONTENTS

- 2 中央区 外出自粛の中でも見守り・つながり続ける  
シカゴの社会福祉 視察研修参加者レポート⑤
- 3 市社協・区社協(特集)集まれなくてもつながる方法  
—今できること—これからのこと—
- 4 旭区 誰かを「受け入れる」ことへ  
自分の「居場所」がでる
- 5 西区 いつもはマチで、楽しくおしごと体験!
- 6 平野区 屋根のシート張り講習会
- 7 NPO法人FAIRROAD  
はじめまして!—こんにちは—
- 8 学校内に多様性を受容する居場所を創造する



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

## 生活資金の相談に応援 体制を組みながら対応

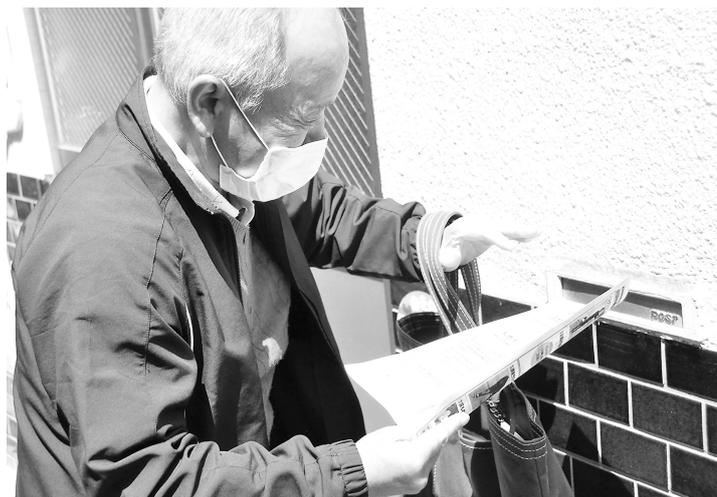
市社協  
区社協

新型コロナウイルス感染症の拡大はとどまるところを知らず、市民生活に大きな影響を及ぼしている。

この感染症の影響を受け、収入の減少もしくは失業等により生活資金で困っている人を対象とした「緊急小口資金」「総合支援資金」の特例貸付が、3月25日から全国的に実施されている。大阪市内では、各区社協が窓口となっており(区役所に窓

口を構える区もあり)、受付開始以来、電話や来所による相談、郵送による申込みなどが相次ぐ状況に対して、市・区社協全体で、職員の応援体制を組みながら対応している。

また、4月20日からは、一定期間の家賃相当額を支給する制度である「住宅確保給付金」の対象要件が広がり、窓口である生活困窮者自立相談支援窓口(区役所内)には、多くの問合せが寄せられている。



外出しづらくなっている高齢者宅にポスティングする中央区玉造地域の高木義一地域福祉コーディネーター(2面に関連記事)

人との接触を減らすことが要請されている中で、地域福祉活動の現場では、つながりを絶やさないために何ができるのか。今号では、中央区の取組み事例(2面)と、「集まれなくてもつながる方法」(4・5面)をまとめて紹介する。

## HB

青年海外協力隊で  
ボリビアから帰って  
きた若者の話を聞いた。  
彼女が日本での  
NPO活動の経験を生かして、  
海外でも働けると。しかも  
先行きはボリビアという低開  
発国▼今、中南米諸国は、  
ペネエラもペルーも大きな政  
情混乱の中にある。同じよう  
な境遇の中にあっても、ボリ  
ビアは比較的安定し、農業生  
産も豊かなので、人の暮らし  
は落ち着いていたのだとか。  
中南米の国らしく、人は陽気  
で、あまり先の心配もしてい  
ない▼そんな国に若い女の子  
が一人でと心配したのだが、  
すぐに守ってくれる恋人がで  
きたと笑顔。でも別れること  
も平気で、まさに「バイバ  
イ」の一言であとくされも何  
もなかったという。明るく楽  
し気に2年間の体験を語って  
くれたのだが、実際にはその  
貧しさや衛生観念のなさは半  
端じゃなかったのだとか▼そ  
れでもスペイン語を覚えて、  
その陽気な人情にほだされて、  
今秋にはメキシコの大学院に  
行って、国際協力を学ぶのだ  
と張り切っていた▼目の前の  
コミュニティにはいろいろ心  
配もあるが、世界に目を向け  
てみるのもいいかもしれない。  
高齢者向けのシニア海外  
協力隊というのもある。(石)

# 外出自粛の中でも見守り・つながり続ける

新型コロナウイルス感染症により外出自粛が要請される中、中央区社協では、自宅でも過ごす高齢者のニーズ把握と見守りを兼ねた情報提供をすすめている。

## まずは声を聞くことから

中央区社協で、地域支援担当とともに企画・推進を担う生活支援コーディネーターの大谷琴美さんに取り組みのきっかけを聞いた。「3月頃から集いの場が開催できなくなり、中止の連絡をすることが続きました。参加

できなくなると残念だとの声や、次に元気で来ることができるようがんばって過ごします」という声を聞く中で、これまでに「閉じこもらないで交流しましょう!」と発信してきた生活支援コーディネーターとして、今の期間にこそできることはないかと考えました。

まずは第1段階として、聞き取りによるニーズ調査を実施。地域福祉コーディネーター（地域ごとに配置）が、普段見守っている高齢者へ、電話や訪問により自宅での過ごし方などを聞き取り。また、老人福祉センターとも協働体制を組み、老人会会長やセンター利用者に同内容を聞き取り、200件を超える声が集まった。

## 職員実演の体操チラシを作成

ニーズ調査後、第2段階として、A4両面の情報提供チラシを作成。表面は区保健福祉センター協力のもと、感染症の相談窓口情報を紹介するとともに、自宅での過ごし方として寄せられた声を紹介。裏面には自宅で行える体操を8つ掲載している。4月下旬から、このチラシを

地域福祉コーディネーター等に提供し、地域での見守りツールとしての活用を提案。大谷さんは「外出機会が減る中で、転倒して入院する高齢者も増えていると聞くので、高齢者の方には、このチラシを冷蔵庫などに貼って、1日5分、日替わりで体操してもらえたら。地域福祉コーディネーターには、このチラシを見守りのきっかけにしてほしい」と話す。

## 難しさを迷いの中でも見守りを継続

4月23日にチラシを受け取り、さっそく配付を始めた玉造地域の高木義一地域福祉コーディネーターに話を聞いた。高木さんが日頃から見守っている



チラシをもって高齢者宅へ  
(左：大谷さん、右：高木さん)

のは要援護者名簿の登録者や、さまざまなきっかけで接点があった人など200人を超える。「普段から訪問を楽しみに待っていて、あんなの顔見たら元気なるわ」と言ってくれる人もいます。今は人との接触を避けることが原則ですが、最近つながりができた人の場合、訪問ではなく電話だと誰だかわかってもらえないこともあるんです。この状況で見守る難しさを感じながらも、感染予防に留意して、相手に合わせた方法での見守りを続けている。「高齢者の方には、外出自粛を呼びかけながらも、適度に散歩・運動することをすすめています。それと、以前から関わりがある方のものが忘れが気になっているけれど、今の状況でどのタ

野・フィットネス道 森原優次先生監修  
《1日5分》毎日体操 ※奇数日は①②③④、偶数日には⑤⑥⑦⑧をやりましょう！

①スクワット(10回) 太ももまわり、おしりの引き締め

②背伸びの体操(10回) バランス感覚の維持、ふくらはぎの引き締め

③足踏みの体操(30秒) テレビをみている時、口中は足踏み

④グーパー体操(グーパー×30回) 体幹、股筋に効く

⑤腰痛予防のストレッチ(片足10秒×左右×2回) 太ももの裏、お尻に効く

⑥ポートこぎの体操(腕のまげのばし×15回) 姿勢改善、肩こりに効く

⑦尿もれ体操(30秒) 4つ折りにしてぬじったタオルをお尻ではさむ

⑧股関節のストレッチ(10秒×2回) 股関節に効く

介護予防事業の講師監修のもと、区社協職員がモデルとなって実演(情報提供チラシの裏面)



本誌では、今後も新型コロナウイルス感染症の影響下でのつながりを絶やさないための各区・地域の取組みを紹介していく予定です。

# シカゴの 社会福祉

視察研修参加者レポート⑤

## 養子縁組機関「クレイドル」を 視察して

うんぼう  
雲寶 美季 さん

社会福祉法人 聖家族の家 乳児院 聖母託児園



クレイドルはアメリカ内の有数の養子縁組機関で、国内唯一乳児保護室を設けています。イリノイ州では、出生後72時間以内に任意養子縁組計画に母親が同意した場合、遺棄にあたらず罰せられません。乳児保護室では、産みの親がその決断するまでの間預かり、障がいのある赤ちゃんも入所します。母親は法的書類に署名すれば、親権放棄決定は取り消すことができません。日本の親権放棄の仕組みとは異なると感じました。

クレイドルでは、産みの親へのサポートチームと里親・里子へのサポートチームに別れて支援しています。法的処理、教育サポート、カウンセリング、アフターケア、そして地域住民への関係づくりだけでなく、病院に向向いて妊婦やカプセルに対する教育にも力を入れています。また、養子のアイデンティティーの確立を意識し、産みの親と養子の再会サポートをし、実親と里親が協働し



100年の歴史があり、  
歴史博物館も併設されています

小さな心が葛藤する様子に、寄り添うことしかできない苦しみを感ずますが、後に幸せな家族の様子を聞くと安心します。支援体制の充実を図り、共に愛情を繋いでいく里親や施設職員を増やすことが望ましいと感じます。

現地でお世話をしてくださったスタッフの心遣いとあたたかさにとっても感謝しており、得たことへの理解を深めたいと思います。



至るところに子どもたちの  
写真が飾られています

て養育する体制を整えていました。産みの親が里親を選び、1対1で話す機会を持つ際は専用部屋があり、職員の方も特別な部屋として扱っていました。

欧米主要国では概ね半数以上が里親委託であるのに対して日本では施設対里親の比率が9対1となっており施設養護への依存が高い現状です。見学したことで社会的養護と家庭的養護のそれぞれの利点をもう一度見つめ直したい機会になりました。

私は施設のこどもを里親へ何度か見送ってきました。施設担当職員から里親へ愛着の移行を徐々にしていく中で

### 風をよむ

## 遠隔授業と「学校」に通う意味

大阪市立大学大学院生活科学研究科 講師  
鵜浦直子

新型コロナウイルスの感染拡大により、4月7日に緊急事態宣言が出された。この原稿を書いている今、その後の状況がどうなっているのかは全く予測がつかないが、緊急事態宣言が出されたことにより、筆者の所属大学も授業の開始が5月半ばに延期されるとともに、遠隔授業が基本となった。

い学生への学習保障には効果があると感じた。通常は、大学に来て講義を受けなければ単位取得できない。しかしながら、遠隔授業であれば、大学に来なくても、自分のペースで学ぶことができる。

文科科学省は近年、遠隔授業（遠隔教育）の取り組みを進めてきた。2018年には「遠隔教育の推進に向けた施策方針」を出している。この方針のなかで、遠隔教育の効果として、①距離に関わりなく相互の情報発信・受信が可能、②小規模校等における教育活動の充実、外部人材の活用や幅広い科目の開設などによる学習活動の幅の拡大、③不登校児童生徒や病気療養児など通学が困難な児童生徒にとつての学習機会の確保、が示されている。今回、遠隔授業に向けて準備するなかで、とくに、③の通学が難しい

学校に行く意味については、かねてから疑問を呈している人たちもいる。ただ、社会福祉の実践において「学校」はこれまで大きな役割を果たしてきた。たとえば、家庭環境の厳しい状況にある子どもにとつて「学校」は避難場所や居場所であったり、問題の発見の場になっていたりもする。今回のことをきっかけに、遠隔授業は本格的に導入されていくかもしれない。そうなると、人が同じ場所に集まって、同じ時間を過ごし、同じことを学ぶという、いわゆる「学校」というものの意味やそこに通う意味について問い直しが始まるかもしれない。

文科科学省「遠隔教育の推進に向けた施策方針」（平成30年9月14日）

# 特集

# 集まれなくてもつながる方法

—今できること・これからのこと—

市社協  
区社協

新型コロナウイルス感染症が広がり続ける中、地域福祉活動の中止が相次ぎ、活動者の方々は、戸惑いや葛藤、一方で自身の健康や暮らしにも不安を覚えながら、複雑な気持ちの中で過ごしているのではないのでしょうか。

そうした状況にあっても、つながりが途切れることなく、お互いの暮らしを気にかけて、見守ることができると一助となるよう、さまざまな活動に関わる方に向けて「集まれなくてもつながる方法」を紹介します。

これらは決して対面でのやりとりに勝るものではなく、「こうすればすべてうまくいく」というものもありません。ジレンマを感じることも多いと思いますが、今できること、そして今後に向けて必要なことを、無理のないタイミングで、できることから考えていきましょう。

## 集まれなくても つながる方法

—“密”を避けながら今できること・これからのこと—

電話で

手紙・  
届けもので

オン  
ラインで

うちで  
できること

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

今回の特集記事は上記資料の内容を要約したものとなっています。全文（PDFデータ）は大阪市社協ホームページ（トップページ▶お知らせ）からご覧ください。



### まずは自分の暮らしを 第一に

今回の事態は誰もが当事者であり、感染のリスクや、自分が広げてしまう側になるかもしれないという不安を感じていることでしょう。

活動者の方も、まずは一人の生活者として、自分や家族の暮らしを第一に、健康管理や感染

防止に十分留意しながら、決して無理しないことを原則にしましょう。

「集まれなくてもつながる方法」（5面参照）は4項目にまとめていますが、複数を組み合わせたり、相手・場面によって使い分けたりすることでより可能性が広がります。

活動者から参加者へのアプローチに、また活動者同士のコミュニケーションを続けるため

## 高齢者のお宅を見守ってくださる方へ 訪問時の注意事項

### 訪問前後

- 体調確認  
37.5℃以上や体調不良時は訪問しない
- マスクを正しく装着  
鼻や口を正しく覆えているか確認
- 帰宅後すぐ石けんで手洗い・うがい



### 訪問時

- アルコールで手指を消毒する  
訪問先の門やフザーを触る直前訪問先を離れたらすく
- 屋外で話す  
お互いに手を伸ばして当たらない距離（1m以上）離れて話す  
15分以内で終える



訪問時の参考に（大阪市福祉局高齢福祉課 作成チラシの一部）

に、できそうなこと・使えることからぜひお試しください。  
また、この状況の中でも、高齢者への配食を継続したり、会食や子ども食堂を配達型に柔軟に切り替えて対応する動きも見られます。このように、対象者の生活状況や、感染症の動向・予防策に留意しながら、「訪問」を取り入れる場合のポイントもあわせてご確認ください（左上図参照）。

### 活動再開のイメージを 考えてみる

この感染症がいつ終息するかはわかりませんが、状況が落ち着いてきたら段階的に、3つの密（密閉、密集、密接）をつくらないように気をつけて人数で顔を合わせることや、屋外での活動（例：公園での体操、会館近くの広場での居場所活動）などが取り入れやすくなるかもしれません。  
人が集まる活動について、いざ再開するときには何が必要か、例えば、体調・体温チェック、手洗いの徹底、消毒、換気、会場レイアウトの工夫など、気をつけておく点を想定しておくこともできます。人数規模や実施場所・方法について見直すことで、感染リスクを下げることができるといえます。

# 集まれなくてもつながるための4つの方法

## 1 電話でつながろう



- ・これまで活動に参加していた方の安否確認や、メンバー間のコミュニケーションのために、日頃から使っている電話は有効です。閉じこもりがちな生活の中で「誰かが気にかけてくれている」「つながっている」という気持ちが芽生えます。
- ・特にこれまで活動を通して、気にかけていた人（一人暮らしの人など）についての情報を改めて整理して、個別に連絡することは、お互いの安心感や、何かあったときにSOSを出せる関係につながるでしょう。



## 手紙・届けものでつながろう 2

- ・活動団体に関するおたより（ニュースレター）、会えなくなっている参加者へのメッセージカードをつくる動きもあります。相談窓口の情報や衛生物品などを組み合わせて配付することも考えられます。
- ・郵送するほか、戸別にポスティングすることもできます。玄関先や家の様子から暮らしぶりをうかがったり、インターホン越しに一言交わすこともできるでしょう。また、返信用ハガキを使って近況を確認することも考えられます。

## 3 オンラインでつながろう



- ・ICTツールを使うことで、会わずしてできるコミュニケーションの幅が広がります。メールやLINE（無料メッセージアプリ）は多くの人になじみがありますが、あらためてメンバー間でのコミュニケーションツールとして使い方を見直したり、工夫次第では見守りのツールになるかもしれません。
- ・さまざまな会議が開催しづらいついで、無料で使えるオンライン会議用アプリ（Zoom、Skypeなど）も注目されています。関係団体間でのネットワークづくりなどで活用できる可能性があります。



## うちでできることをシェアしよう 4

- ・閉じこもりがちな生活の中で、身体機能が低下したり、気持ちが沈んだりする人が増えることも懸念されます。そのような中、集いの場に参加していた高齢者に向けて、家でできる体操や脳トレを掲載したプリントなどを配付する動きもあります。
- ・子育ての分野では、休校・休園中のこどもたちが家でできる遊びを紹介したり、Webアンケートなどを活用して各家庭での悩みや工夫を集めて、共有することも考えられるでしょう。
- ・このように各自が家でできることについて、上記123と組み合わせながら、対象者が受け取りやすく、こちらも過度の負担にならない形でのシェアを考えましょう。周知ツールをつくったり、みんなの声やアイデアを集めるプロセスそのものが、コミュニケーションをとるためのきっかけになるかもしれません。



自宅で行えるストレッチや日記をつけられるプリントを作成(城東区)

つながり方の選択肢を増やすチャンスに

視点を考えると、この感染症以外にも、物理的な距離があるとき、時間が合わないとき、災害時など、「集まらない状況」は起こり得ます。また、身体状況により集まりの場に出向けない、あるいは家庭の事情で家を離れられないなど、「集まりづらい人」もいます。

このピンチを少しでも前向きに捉えようとすれば、ここで紹介した方法は、実は「日頃からの集まらない状況や、集まりづらい人のための選択肢を増やす可能性がある」と考えることもで

きます。例えば、居場所の参加者のうち特に気になる人の連絡先を整理しておくことで災害時・緊急時の安否確認がしやすくなること、また、会議にオンラインでも参加できるようにすることで直接出向くことができなくても意見を言える人が増えることなどが期待できます。

このような試みを取り入れることで、長い目で見たときに、人と人とのつながりが弱まるのではなく、今までの集まり方にならぬ新たな要素——例えば、気にならぬ人への見守り、ちょっとした困りごとへの助け合い、災害時の対策、さまざまな場面にアクセスしづらいつい人の社会参加——が付け加えられたり、より充実できる契機となれば幸いです。

大変な状況ではありませんが、また笑顔で集まることのできる日まで、さまざまな「アイデア」や「チャレンジ」を共有しながら、つながりづくりの新たな一歩を創っていきましょう。

※この記事は、令和2年4月28日時点での情報に基づき作成されています。今後、感染症に関する状況推移により、その時々での判断が必要になることが想定されます。

# 誰かを「受け入れる」ことで、

# 自分の「居場所ができる」

## 第2回あさひあつたかり親家族づくりシンポジウム

2月8日、里親の理解を深めるためのシンポジウムが旭区民センター小ホールで開催された。フロアでは、旭区人権啓発推進員、旭区更生保護女性会、旭区民生委員児童委員協議会などの協力により、子どもが遊べる「ちよこつと縁日」や、旭区子ども食堂ネットワーク会議によるカレーライスが提供された。また、ホールの隣では里親相談会を併設。親子連れの来場者が多く訪れた。

### 暮らしの土台づくりに寄り添う

冒頭、花田公絵区長は「大阪市の里親委託率はわずか17%。小学校区に1人の里親を」と目標を語り、シンポジウムへの期待を込めて挨拶。

第1部、オープニングコンサートでは、金管五重奏の楽団が「トトロメドレー」「愛をこめて花束を」など人気の曲を演奏。やわらかで深い音色が広がり、会場はあつたかムードに包まれた。続いて、区役所職員有志が里親と里子の絆を描いた寸劇を披露。コミカルな演技、住みます芸人の登場で会場をわかせた。

第2部は「子育てと地域



防災情報も盛り込んだ寸劇「家族の絆」

社会のいまゝわが子・人の子・社会の子 家族づくりは楽しい」と題して、大阪府子ども家

庭サポーター・辻田起子さんが基調講演。辻さんは、DV被害を受け、一人親になるも子育てがうまくいかず、社会福祉と教育を学び「子育ては本能ではなく、学ぶ（真似る）もの。孤立し周囲に学ぶ人がいないから子育てがうまくいかない」ことを知る。生きるには「暮らしの土台が必要」で土台づくりに寄り添う支援が求められると強調。「受け入れた誰かを通して、人生が豊かになり、居場所ができる」と里親になることの醍醐味も示唆した。体験に裏打ちされ

た深遠なメッセージの数々に、来場者らは大きくうなずいた。

### 里親・里子の

### それぞれの経験を語る

講師、区長、子ども相談センター職員、里親、里子経験者によるトークタイムでは、花田区長が「関係機関の連携を強めるとともに、子育て家庭への訪問型サポートも採り入れ支援する」と話し、子ども相談センター職員の田村美加さんは「里親制度普及から里子の自立まで一貫して支援する」と表明。辻さんは「短期受け入れの家庭が校区に1つあれば、地域の養育能力が高まる」と話す。行政と地域が協働してつくる子育て環境のありかたを示す形となった。一方、現役里親の田中良美さ



トークタイムでは行政から里親・里子経験者まで意見や思いを述べた

んは「里親をしていなかったら実子が巣立った後、夫婦だけで寂しかったはず」と里親経験を喜びの表情で語り、元里子の松江直人さんは「里親には感謝しかない。里子であることを人に話すとは特別視されるのが寂しかった」と話す。司会を務めた区保健福祉センターの佐野雅哉さんは「里親育ちだと堂々と見える社会に変えていかなければ」とまとめた。「目の前で困っている人に、みんなが少しずつ手を伸ばせば、助けることができる」という辻さんの力強い結びの言葉に、立場を超えた「お互いさま」の関係が社会にもたらす価値を再認識させられるシンポジウムとなった。

## 西区

# いつものマチで、楽しくおしごと体験！

## 西区わくわく子どもフェスタ開催

西区社協では、地域のこどもたちにさまざまな職業を体験できる機会を提供する職業体験イベントを、2月11日、西区民センターで開催した。

市内でも、こどもが多い西区。開場と同時に親子連れ、家族連れの人々が集まり、広いホールはすぐに来場者で埋め尽くされた。

会場入り口の屋外スペースでは、地域団体が出店するうどんやフランクフルトなどの屋台コーナーが設けられ、隣では、



こどもたちは目を輝かせながら楽しそうに体験していた

白バイ紹介コーナー。1階では、作り方を習って楽しむ彩り豊かなバルーンアート、ごみの分別クイズに答えてから楽しむピンバッジ体験、制服を着て安全確認を学べる警備員コーナー、お医者さん・獣医さん体験コーナー、最新の複写技術に触れて遊べるコピー屋さんなど、それぞれ趣向がこらされた体験型ブースは、ワクワクと目を輝かせるこどもたちでいっぱい。また、壊れた人形や動かなく



多くの親子連れが訪れ大盛況！

なったトイカーなどを生き返らせる、おもちゃ病院もデビューを飾った。

2階では、ネイルアートやメイクアップも体験でき、こどもたちは多彩なジャンルの仕事に

触れたり、創作意欲、チャレンジ精神が刺激され、いつまでも思い出に残るようなイベントとなった。

スタッフは、「西区では初めての企画でしたが、大盛況でびっくり。こどもの多い当区では、日ごろより子育て支援にも力を入れています。今回は特にボランティア、地域の企業の方々、地域団体、医師会、警

察、環境局などの関係団体も一緒に盛上げようと取り組みました。社会貢献活動に意欲的な団体同士の出会いの場にもなっており、良かったです」と話

す。

職業体験を通して、さまざまな人が出会い、つながることができ、主催者、協力団体、参加者すべての人々が楽しい！と実感できた一日となった。

## 平野区

# 屋根のシート張り講習会

はじめてみよう！災害時のたすけあい

2月23日、平野区社協は、屋根のシート張り講習会を開催し、25人が参加した。平成30年の大阪府北部地震や台風21号の際に区内で要望が多かったブルーシート張りを学ぶことをとおして、災害時のご近所同士の助け合い・支え合いを考えることを目的とした講座である。

NPO法人災害レスキューアシスト代表の中島武志さんを講師に招き、参加者はブルーシートの張り方や長くもたせるコツ、安全管理について学んだ。土嚢袋を使わず、野地板を使い、刃で押さえる「茨木方式」と呼ばれる方法を学び、講義では、「実は半年以上保てるようにブルーシートを張る専門家は

いなかった」との話も。また実

物の大屋根の模型を使ってシート張りを体験するなど、実践型でわかりやすい講座となった。熱心な参加者の質問に答え、屋根瓦の安全な歩き方も、ていねいに解説した。

講座の最後には、区社協から災害ボランティアセンターについて、岡山県や熊本県での被災地支援の写真を交えながら、活動紹介などの情報提供があった。

今回の講座を企画した区社協の井上佳奈さんは「今後は当日の参加者に



実演を交えながらわかりやすく伝えられた

# はじめまして! こんにちは♪ NPO法人 FAIR ROAD

NPO法人のご紹介 ▷ 65 ◁

## 学校内に多様性を受容する居場所を創造する

NPO法人FAIR ROADは、「日本とアジアの子どもたちにスキルを！」を合言葉に、どんな環境で生まれ育ってもフェアにチャレンジできる社会をめざす、2012年に設立した教育福祉NPOです。

海外事業は、毎年タイのバンコクのスラムやタイ・ミャンマー国境沿いの難民キャンプ、移民学校などを訪問し交流しています。

国内事業は、①大阪府教育庁の委託事業「課題を抱えるフォローアップ事業」として府立高校内で居場所カフェの運営②自主事業として大阪市立の中学校内での居場所事業③地域の施設において地域と協働型の居場所を企画・運営しています。

大阪府内の高校生の中退や不登校の割合が高止まりするなか、大阪府は2013年度から運営をNPO法人など民間団体に委託し、中退や不登校防止のために課題を抱える生徒を早期発見及び登校の動機づけをおこなうことを目的として「高校内居場所カフェ」を開設しています。



中学校内の図書館での居場所

私たちは、2017年度から

2校、昨年度から3校を受託し、それぞれ週2回高校内居場所カフェを開き、日々高校生の「声なき声」「小さな声」を拾い集めて学校の居場所事業担当の先生と共有をはかり、ケースに応じてSSW（スクールソーシャルワーカー）との連携で社会資源につなげます。高校内居場所カフェで生徒の「声」を聴くと、今までよく生きてきたなと感じるほどのサバイバーで、課題は中学時代にすでに大きく膨らんでいます。自己同一性の獲得をめざすなか、親に言えない小さな違和感が心を押し潰していることもあります。そこに家族の関係性や家族の経済状況などが加味され、目標を持たず試行錯誤している様子、考えるスイッチを切ってフリーズする姿が伺えます。

中学校内にも理由なく立ち寄れる「学校内居場所」があり、地域の多様な価値観を持った大人が寄り添い、そこに居る子ども自身が『そこに居ていい』と感じ「ありのままでもいい」「安心できる」「認めあえる」といった子ども自身が主観的で対話的な学びの空間が広がればと考えます。

事務所 〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-5-16-1001  
E-mail : (代表) info@fairroad.org HP : https://fairroad.org/  
FB : https://www.facebook.com/fairroad.can.change.the.world/

### 支えあう

### 住みよい社会 地域から

民生委員・児童委員の日(5月12日)

民生委員・児童委員は、身近な相談相手として、地域の方々の生活に寄り添い、笑顔、安全、安心のため、それぞれに、それぞれに、地域において関係機関とも連携し、見守り活動など、さまざまな取り組みをおこなっている。

5月12日~18日を活動強化週間とし、全国23万人の民生委員・児童委員が一斉にさまざまなPR活動等を展開することにより、地域住民や関係団体などに、その活動や存在について、一層の理解促進を図り、委員活動の充実につなげていくことをめざしている。

今年には新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、市内各区民生委員児童委員協議会においても、ポスター掲示等の啓発活動をおこなっている。

このポスターは、絵本作家のさくらせかい氏の作品です  
標語 「やさしさに つつまれそだつ やさしいこころ」  
期間 2020年5月1日~31日

立ちどまらない保険。  
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

1人1万円の保険 1000円以上の保険 1人1000円の保険

www.ms-ins.com